

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 健光園	代表者	小國英夫	法人・事業所の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の資源として子どもからお年寄りまで世代を越えて交流できる場。 ・住み慣れたご自宅でお一人おひとりの状態に合わせて通い、泊まり、訪問を組み合わせることにより馴染みの職員、地域とともに安心ある生活を過ごして頂ける。
事業所名	藤城の家	管理者	池田大助		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	1人	5人	人	人	1人	人	5人	実習生1人	12人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	地域の方に不安感を持って頂かない体制作り、人員不足等の解消に努めていく。	ご利用者数増に伴い、職員体制も昨年よりは、整えることが出来た。また1階事務所の職員不在時間を減らすことも出来ている。	<ul style="list-style-type: none"> ・良くなってきていると思う。 ・(小規模スタッフではないが)1階の事務所にも人がいる時間が増えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・藤城の家にある3つのサービス(特養・GH・小規模)の特性・区別が良い意味で地域の方にご理解いただけるようアピールする。
B. 事業所のしつらえ・環境	見学会等を設定し、地域にも開放、見学を実施していく。全体では生活、居住スペースもあるがプライバシーに配慮しながら対応していきたい。	見学会は未実施。希望者には随時対応。実際に「扉」を開いていたとも思うが、ご利用者への配慮もあり、外から中へと気軽に入れようような仕組みは継続課題。	<ul style="list-style-type: none"> ・施設内の交流スペースは利用するが、事業所の中まで入ったことが未だないから、わからない。 ・扉を開けても良いものか遠慮はある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小規模事業所の「扉」を開けやすい仕組みを作る。 ・施設内の隣にある交流スペースでのカフェ・イベントへの積極的な参加。ご利用者も職員も。
C. 事業所と地域のかかわり	町内会へ入会すること等して地域との交流をすすめていく。	町内会との関係は良好。地域イベント等には、積極的に参加できたが、一部職員のみ参加。事業所としての「発信」は不十分。	<ul style="list-style-type: none"> ・交流スペースを利用して、もっと地域の方が利用できるよう案内に工夫が必要。 ・回覧等利用して、発信すべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページや施設外周へのポスター掲示等、情報発信に努める。 ・職員の顔と名前のアピール。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取り組み	地域のイベント等に利用者に参加している。特定の利用者が多いが他の方にも参加して頂けるようにしていきたい。	通所利用時の地域イベントへの参加は随時できた。在宅時のご近所交流等、さらに個別に、身近な地域参加への支援は課題。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域イベントと施設のイベントが同日に被らないように。 ・地域のイベントへの積極的な参加は大歓迎。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種団体会長との連携。 ・職員会議の時間確保を行い、ご利用者の「思い」を共有する。 ・生活歴、自宅での暮らし方を知る。
E. 運営推進会議を活かした取り組み	利用者の現状報告を行い利用者にとってどういった資源が必要なのか地域の方と考える。	個別な利用者の情報共有にはあまり結びつかなかった。事業所および施設が地域の「社会資源」として広がる取り組みも課題。	<ul style="list-style-type: none"> ・困ったことがあれば、どんどん頼ってくれて良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、写真を利用した事業所活動報告を行う。 ・ご利用者およびご家族の参加への呼びかけを行う。
F. 事業所の防災・災害対策	地域の方に情報提供を行いどういった協力が必要かお伝えし考えていく。地域の消防団の方とも連携をとっていきたい。	施設の防災訓練への協力依頼は出来た。救急救命講習開催。地域の防災訓練参加。自主防災会・消防団との顔の見える関係は継続課題。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の防災活動も知っておくと良い。 ・災害発生時には、頼りにしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・備蓄品の保管状況確認。 ・施設全体での防災マニュアルの整備。特に夜間、早朝の対応。